

杉村研究室（森林政策学）

けん
教員名：杉村 乾

● どんな研究をしているところ？ どんなことに役立つの？

日本の国土の3分の2は森林でおおわれ、木材の供給、二酸化炭素の吸収、水の供給、防災、レクリエーションの場、快適な環境の形成、多様な生物の生息場所など、様々な面で私たちの生活と強く結びついています。

森林政策学研究室では、1) 森林の環境を簡便な方法でモニタリングする、2) 人と森林の関係を把握する、3) 人と森林の健全な関係を持続的に保つための政策を提言するという、3つのステップで研究を行っています。

たとえば、

- 奄美大島、インドネシアなどで、野生生物、森林の伐採、地域経済などについて調べ、希少な野生生物の保護と同時に地域社会に合った政策を提言してきました（写真A）。
- 里地里山でのレクリエーション活動を調べ、人がどのような環境を好んでいるか、明らかにしています。
- 沖縄や福島など、日本の各地で、森林利用について調査し、地域間の違いを明らかにしています（写真B）。
- 兵庫県で、森林が持つ様々な役割を比較し、それぞれがどの程度重要と意識されているか調査し、森林計画に活かす方法について提言しました（図）。



写真A 野生動物の調査



写真B 標識・看板の調査

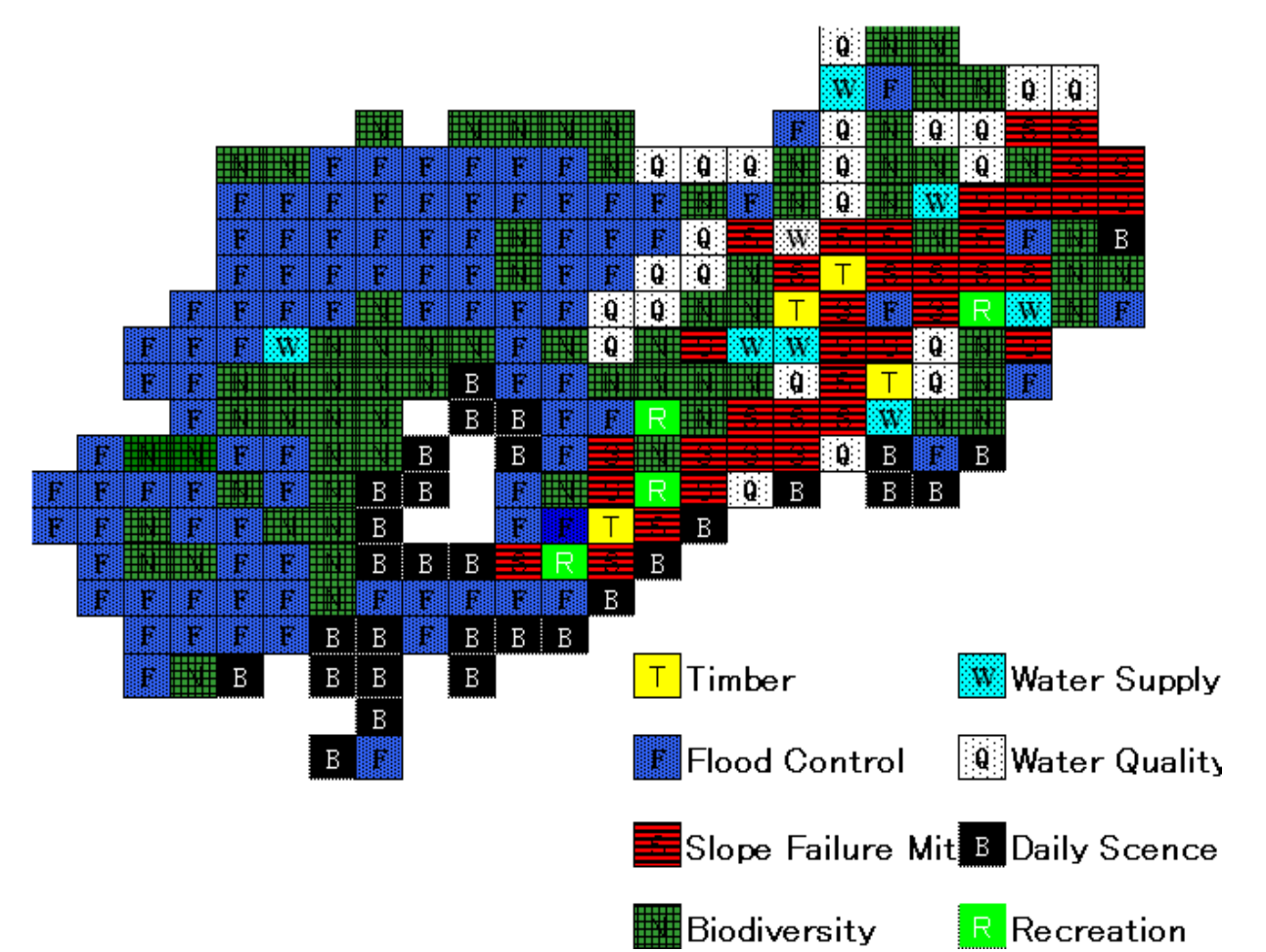


図 森林計画への提言

● 先輩はどんなところに就職しているの？

2年前にスタートした新しい研究室です。県、環境コンサルタント会社、JA、その他一般企業などに卒業生を送り出しています。人間活動と自然環境との調和を考えながら仕事をするような場で、活躍することが期待されます。